



第7回こども貧困対策会議 資料

平成30年度高浜市学習等支援事業 「ステップ」 「ステップ・ジュニア」 事業報告



NPO法人 アスクネット

名古屋市熱田区沢下町8-5
TEL 052-881-4349 FAX 052-881-5567

E-mail info@asknet.org
<http://www.asknet.org>



平成30年度の実施報告（ステップ）

1. 利用決定生徒

学年	利用決定人数				
	生活保護 受給世帯	就学援助 受給世帯	母子又は 父子家庭	その他	合計
中学1年生		4名	4名	2名	8名
中学2年生		5名	4名		6名
中学3年生		6名	6名	1名	9名
高校1年生	1名		5名	5名	11名
高校2年生			2名	2名	4名
高校3年生			3名	2名	5名
合計	1名	15名	24名	12名	43名

※合計は利用決定者数（世帯状況は重複する項目あり）

2. 実施回数と参加状況

- ・実施回数：62回
- ・参加生徒：のべ1057名
- ・チャレンジサポーター参加数：のべ264名

平成30年度の実施報告（ステップ）

3. その他の実施事項

(1) キャリア教育支援

- ・目的：生徒たちが社会に出ていく上で必要な様々な力を身につけるための支援
- ・内容：社会人講師を活用した講座やチャレンジサポーターが企画した講座、生徒たちが自ら企画したイベント等
- ・実施回数：19回

(2) キャリアカウンセリング

- ・目的：進路選択のサポートや中退防止に向けた支援
- ・対象：ステップに参加している高校生及び中学3年生
- ・内容：今後の進路についての相談、進学・就職先で必要になることのアドバイス、学校や家庭での悩みに関する相談
- ・実施回数：9回（6月30日、7月7日、11月17日、12月1日、12月15日、1月12日、2月2日、3月2日、3月9日）
- ・参加人数：延べ19名
- ・子ども達の変容：体調の面から将来の仕事について不安を持っていたり、知っている仕事の少なさから将来の選択肢の幅が狭かったりする生徒が、面談後には自身の将来の視野が広くなり学習等の意欲が向上した。

平成30年度の実施報告（ステップ）

（3）追跡調査の実施（高校生対象）

- ・目的：中学校卒業後の状況・進路決定状況・支援の必要性の調査
- ・対象：過去に登録をしていた生徒、および、過去に年間2回以上参加をした生徒
※平成30年度時点77名（うち連絡先あり46名、不通1名）
- ・調査方法：本人へのヒアリング、郵送、電話
- ・高校卒業生の状況：（12名中）進学5名・就職5名・在学中1名・休学中1名

（4）ステップ通信発行

- ・目的：主に教員や保護者にステップの活動の様子を周知する
- ・発行回数：年間5回発行
- ・配布方法：ステップで配布

（5）昼食支援

- ・協力団体：18団体
- ・利用生徒数：のべ725名

平成30年度の実施報告（ステップ）

（6）チャレンジサポーター定例会・研修

- ・目的：チャレンジサポーター同士の情報共有や支援内容についての話し合い及びサポータースキルの向上
- ・実施回数：4回（6月24日、9月24日、11月11日、3月24日）

（7）保護者会

- ・目的：ステップ利用生徒の保護者との情報交換及び交流
- ・内容：生徒のステップでの様子や成長を伝え、保護者からの質問や相談に対応
- ・実施回数：1回（2月24日）

平成30年度の実施報告（ステップ）

4. その他特記事項

（1）外国籍の生徒について

外国籍の生徒の参加があり利用登録に至った。日本語が堪能ではないため、ステップで日本語について学びたいというニーズがあった。

この生徒に対しては、自身が持ってくる宿題を中心に日本語に関する学習を進めた。またチャレンジサポーターとの会話やイベントへの参加を通じて、日本語でのコミュニケーションを取る機会を多く作った。その結果、徐々にではあるが日本語による会話ができるようになっていった。

（2）就職・進学状況

中学校卒業生、高等学校卒業生の全員が就職・進学をした。

（就職・進学率100%を達成。進路未決定者0名。）

（3）就職・進学先

高等学校卒業生：株式会社アクロス、エヌティーテクノ株式会社、愛知淑徳大学

中 学 卒 業 生：高浜高校(普通1・福祉1)、碧南高校(普通1)、三好高校(スポーツ1)
刈谷北高校(普通1)、刈谷東高校(通信1・昼定1)、
名古屋情報専門学校(高等過程1)

生徒の変容（ステップ）

○新中学3年生Kさん（昨年度参加回数55回）

中学1年生時より参加。当初から学習は苦手であり、また学校内の人間関係においてうまくいっていないことから、自己効力感が低く、自信が持てていない様子が見られていた。

ステップでの活動では、チャレンジサポーターやスタッフとのコミュニケーションは多く、周りからのフォローを得ながら徐々に話し合い活動等でも発言が増えていくなどの変化が見られるようになった。クリスマス感謝祭では自ら司会に立候補するなどの積極性を見せ、少しずつ自信をつけていっているように感じた。

○新高校1年生Sさん（昨年度参加回数44回）

ステップを利用し始めた中学2年生時は不登校状態であったが、3年生時からは通常登校ができるようになっていった。H30年度はイベントや話し合い活動にもしっかりと取り組めるようになり、ステップ・ジュニアの児童などの下の年代の面倒を見る姿が目立つようになった。受験に向けた学習にも粘り強く取り組み志望校合格を果たした。

○新大学1年生N君（昨年度参加回数51回）

中学3年生時より参加。体調の問題により全日制高校から通信制高校に編入となった。学習・イベントともに積極的に取り組み、また自分からやりたいことを提案するなど、ステップを活用して様々な経験をしていった。自身の進路についてチャレンジサポーターやスタッフと相談し、志望校決定後は受験に向けて学習を進めた。志望校に合格し本年度からはチャレンジサポーターとして引き継ぎステップに参加をしている。「支えられる側から支える側へ」というステップの目指すモデルケースとなっている。

平成30年度の実施報告（ステップ・ジュニア）

1. 利用決定児童

学 年		利用決定人数										合 計		
		ふたり親			母子家庭			父子家庭			うち困窮等			
		うち困窮等		他	うち困窮等		学支	生保	うち困窮等		学支	生保	学支	生保
		学支	生保		学支	生保			学支	生保				
小 学 校	4年生	2	2	0	0	1	1	0	0	0	0	3	3	0
	5年生	0	0	0	0	4	3	0	1	0	0	5	3	0
	6年生	1	1	0	0	3	2	0	0	0	0	4	3	0
その他		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合 計		3	3	0	0	8	6	0	1	0	0	12	9	0

2. 実施回数と参加状況

- ・実施回数：106回
- ・参加児童：のべ514名
- ・地域スタッフ参加数：のべ44名
- ・チャレンジサポーター参加数：のべ65名（実人数：10名）

平成30年度の実施報告（ステップ・ジュニア）

3. その他の実施事項

(1) キャリア教育支援イベント

- ・目的：①教科に絡めた講座を実施することで学習に対する興味・意欲の向上
②様々な年代と関わり関係性を構築する能力を身につける
- ・内容：学習講座、料理講座、社会人講師講座、地域の方を講師とした講座等
- ・実施回数：104回

(2) 送迎支援

- ・目的：いきいき広場から遠い児童の参加の促進
- ・実施内容：高浜市内の小学校5校といきいき広場間の送迎の実施
 - ・学期中の平日：各学校の集合場所—いきいき広場までの送迎（行きのみ）
 - ・土曜日・長期休暇中の平日：各学校の集合場所—いきいき広場間の送迎（行き帰り）
- ・成果：高浜市内5校中、4校に所属する児童が利用登録した
（吉浜小学校、高取小学校、港小学校、翼小学校）

平成30年度の実施報告（ステップ・ジュニア）

（3）ステップ・ジュニア通信発行

- ・目的：児童に対して、活動内容を振り返るためのツール
教員や保護者にステップ・ジュニアの活動の様子を知ってもらう
- ・発行回数：年間11回発行
- ・配布方法：ステップ・ジュニアで配布

（4）昼食支援

- ・協力団体：18団体
- ・利用児童数：のべ306名

児童の変容（ステップ・ジュニア）

○新6年生Nさん（昨年度参加回数101回）

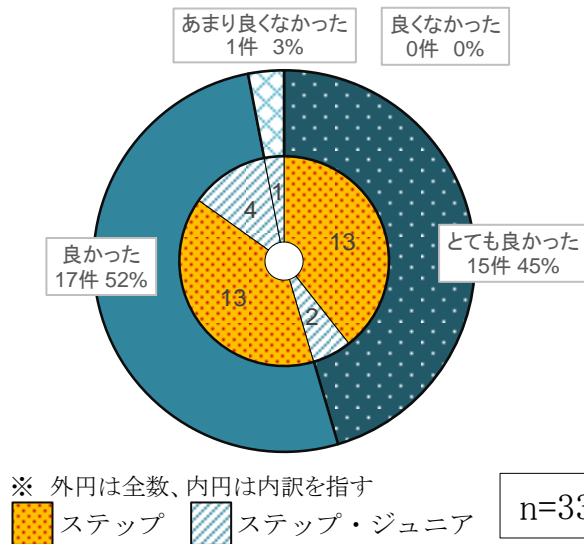
「あすたか」より継続参加。当初は学習に対して苦手意識があり、自ら学習に取り組むことができなかったり初めて会う人には話しかけることができなかった。また講座ではやる前から「嫌だ」「やりたくない」と消極的な様子であった。ステップ・ジュニアの活動で、少しずつ学習に取り組む時間や回数を増やしていき、年度の後半には自分から宿題に取り組むようになった。またスタッフやサポーター、地域スタッフとの関わりから、初めて会う人にも自分から話しかけていくようになった。講座への参加はスタッフやサポーターからのフォローを受けながら参加をすることで、徐々に自ら参加するようになり、12月のクリスマス感謝祭ではゲームの司会を自ら立候補し、務めた。

○新5年生Kくん（昨年度参加回数86回）

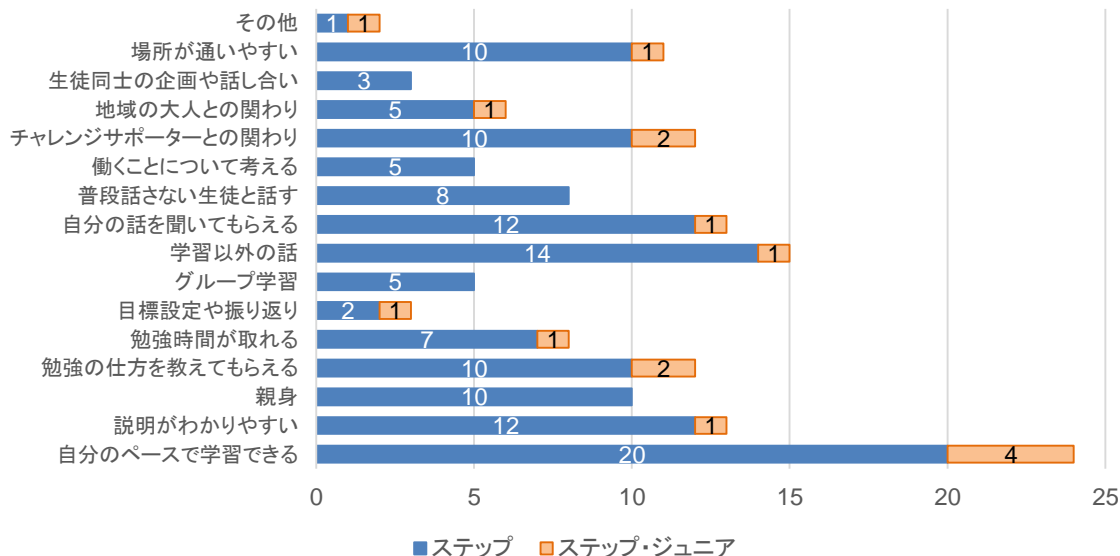
今年度から参加。頭の回転が早く自分の意見を発言することはできるものの、宿題にはなかなか取り組めずスマホを触ってしまうことが多かった。また自分の思い通りにならないと癩癩を起こしたり、暴言がでることもあった。スタッフと2者の面談や、保護者との3者面談を実施し、自らの課題と目標を繰り返し確認をすることで、徐々に周りへの関わり方が相手を思いやる姿勢に変化が見られるようになった。また講座など、自分の得意分野で活躍し周りに認められる経験から、周りの人のことを認められるようになった。

アンケート結果

【質問A】参加して良かったと思うか



【質問A】良かったと思う内容(複数回答)



- 児童・生徒満足度は概ね高いことが伺える。1名の児童が「あまり良くなかった」と回答しており、その理由として、当該児童の性格として集団での活動を苦手としており、グループワーク時のサポートが十分でなかったことが想定される。グループワークの際には、スタッフ1名が常に当該児童に付き添っている状態ではあったが、児童同士の交流への嫌悪感が強いとため、集団に加わるのが難しかった。また学習をしたいという思いが他の児童よりも強く、自分のペースで学習できる環境が整っていなかったことも要因として考えられる。以上の事から、改善策として、集団活動の際には他の児童との協働を促すとともに複数の大人も一緒になって活動に取り組むこと、学習の時間には児童が集中して学習できるよう全体への学習の促しや当該児童への学習サポートを強化することがあげられる。
- 良かったと思う内容では、「自分のペースで学習できる」が最も多く、学習に対して満足している児童・生徒が多いことがわかる。また、「学習以外の話」「自分の話を聞いてもらえる」「チャレンジサポーターとの関わり」など、ステップでのコミュニケーションに対して満足を感じている児童・生徒も多かった。
- 昨年度は見られなかった「場所が通いやすい」が多く見られ、いきいき広場での実施は児童・生徒のニーズに合っていると考えられる。

《備考》年度比較

「ステップ・ジュニア」は本年度より事業開始のため、「ステップ」のみ年度比較を実施

	とても良かった		良かった		あまり良く なかった		良くなかった		合計	
	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合	人数	割合
H30年度	13名	50%	13名	50%	0名	0%	0名	0%	26名	100%
H29年度	16名	57%	12名	43%	0名	0%	0名	0%	28名	100%

表1（ステップのみ抽出。ステップ・ジュニアは本年度より事業開始のため比較不可。）

	自分のペースで 学習できる	学習以外の話	自分の話を聞いて もらえる	チャレンジサポーター との関わり
H30年度	24	14	12	10
H29年度	19	11	12	9

表2（ステップのみ抽出。ステップ・ジュニアは本年度より事業開始のため比較不可。）

アンケート結果からは参加生徒全員が「とても良かった」か「良かった」のいずれかを選択しており、一定の満足度を保つことができているといえる。しかし、それぞれを一昨年度と比較した際には「とても良かった」を選択した生徒が減り、「良かった」を選択した生徒が増えている。（表1）

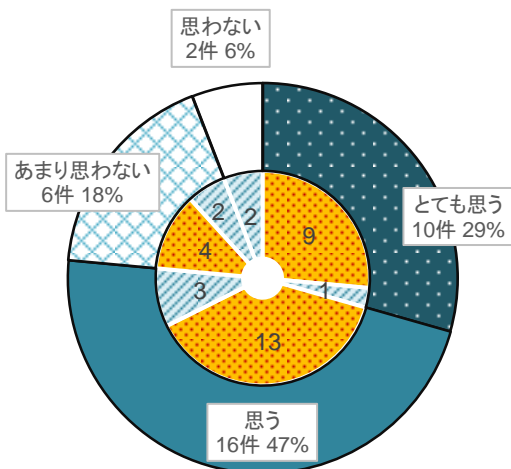
一方、良かったと思う内容については、「自分のペースで学習できる」が最も多く、「学習以外の話」「自分の話を聞いてもらえる」「チャレンジサポーターとの関わり」など、コミュニケーションの要素を含んだ回答が多く見られた。一昨年度と比較すると全ての回答において、同数かそれ以上の回答数となっている。この問いについては複数回答可としており、個人に合った学習やコミュニケーションを求めてステップに参加している生徒が増えていることが分かった。（表2）

上記の結果から、参加生徒の満足度の向上及び参加生徒数の向上のために、下記2点を今後の要点とする。

- ①学習したい生徒が集中して学習できる環境を作れるよう、他の生徒への声掛けやサポート体制をより強化する。
- ②コミュニケーションの相手となるチャレンジサポーターの総数を増やし、特に継続的に参加できるチャレンジサポーターを増やしていく。
また生徒との関わり方として、学習面でのサポートはもちろん多様なコミュニケーションが取れるよう促していく。

アンケート結果

【質問B】参加して成長した(変化した)と思うか

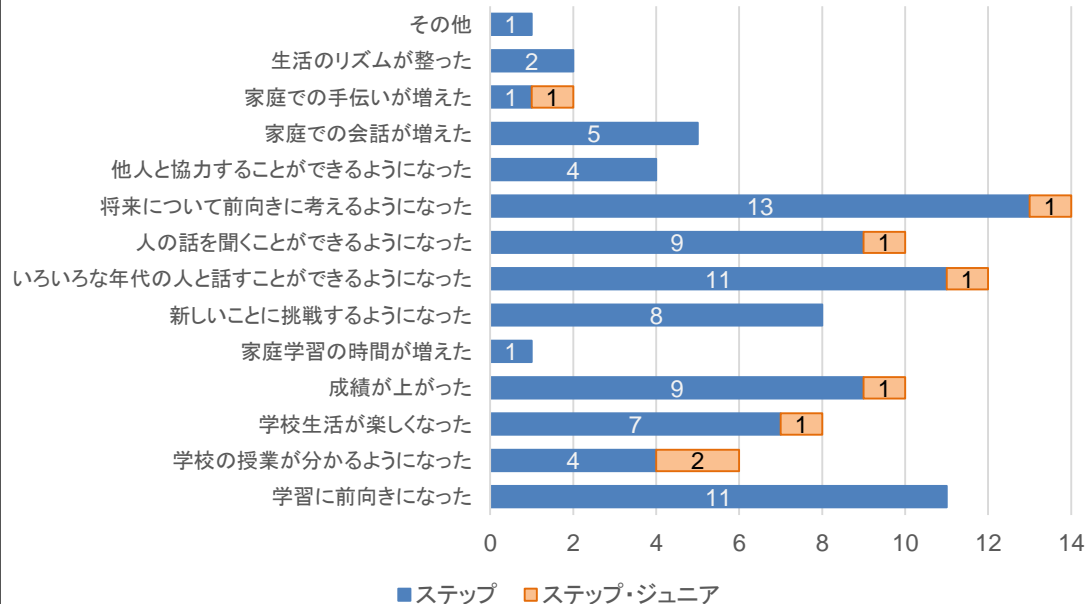


※ 外円は全数、内円は内訳を指す

■ ステップ ■ ステップ・ジュニア

n=33

【質問B】成長(変化)したと思う内容(複数回答可)



- 継続して参加している生徒の多くは自身の成長を実感できているが、昨年度よりも「あまり思わない」「思わない」との回答が増えた。内訳を見ると小学生が多く、小学生も成長を実感できるような振り返りなどの工夫が必要である。
- 成長したと思う回答では、昨年度同様「学習に前向きになった」「成績が上がった」など、学習面での成長を感じた児童・生徒が多く見られた。
- 昨年度最も多かった「他人と協力することができるようになった」が減少し、昨年度少なかった「将来について前向きに考えることができるようになった」が最も多くなった。「いろいろな年代の人と話すことができる」も多く、小学生から高校生までの多様な年代での交流や、サポーターやスタッフ、地域の大人など、多様な大人との関りから自身の成長を感じることができた児童・生徒が多く見られた。

アンケート結果

生徒感想（一部抜粋）

- ・ステップに参加してから、友達が増えたし、明るくなった。
- ・学習に前向きになり、年代問わず話せるようになった。
- ・ステップに通う前は成績やテストの結果に関心を持つことがなかったけど、通ってから成績やテストの結果が大切だと感じた。異世代の人々と話せるようになった。
- ・まだステップに入っていないときに受験のことにすごい悩んでいて、自分でもどうしたらいいかわからなかったけど、ステップに入って、前向きに考えることができたし、数学もわからない部分とかもわかるようになったのでうれしかったし、ステップに来てよかったと思いました。

保護者感想（一部抜粋）

- ・勉強だけでなく、進路などもサポーターさんたちに聞いて情報収集しているようです。
- ・優しい大人がたくさんいてありがたいです。うちは祖父母が近くに住んでいるので愛情不足も補ってくれますが、手厚くて助かります。来年度もお願いしたいと思っています。
- ・子どもが大切なことを学べる気がするところだと思います。人が人に何かをするということの大切さや、いろんな人たちの交流で、ステップの話をよく聞きます。クリスマスプレゼントの話など、とても親の私でも感動したりしますね。これからもずっとステップを続けてほしいと思います。

2019年度の展開（ステップ）

【学習の支援】

- ・生徒一人一人に応じたサポートをより丁寧に展開していく
- ・進路選択を控えた生徒へのサポート（キャリアカウンセリング 等）

【関係性の創出】

- ・地域連携を強化したイベントの実施（ふるさとアクションの新設）
- ・生徒一人一人に応じた外部リソースの提供（インターンシップ、インタビュー学習 等）

【チャレンジサポーターの充実】

- ・多様なチャレンジサポーターの参画（大学生、社会人 等）
- ・生徒一人一人に応じたコミュニケーションの取り方をより意識したサポート

2019年度の展開（ステップ・ジュニア）

【学習の支援】

- ・ 児童一人一人の学習課題への支援
 - 学習の遅れ、宿題や家庭学習への取り組み方等
 - 各小学校と連携し、宿題の提出、学習の遅れの支援を行う

【関係性の創出】

- ・ 地域連携の強化
 - 地域ボランティアの増加（学習指導、講座講師等）

【高校生チャレンジサポーターの役割】

- ・ 月一回、ボランティア部学内活動日の実施
- ・ 高校生チャレンジサポーター企画講座の実施（年3回実施予定）